

科目分類	専門職の教育			開講学科	看護学科
科目番号	学年	担当セメスター	区分	単位数	授業時間数
11002	1	後期	必修	2	30
授業科目名 (英文)	病態生理学 (Morbid Physiology)				
担当教員名	◎高野海哉／堀内 啓				
授業の概要及び到達目標					
看護実践に必要な疾病の成り立ちの基礎知識を学修することである。また疾病の生物学的基礎を学び患者の訴えや治療に対する反応と関連づける習慣を養う。「体の仕組みと働きⅠ・Ⅱ」において正常な人体の構造と機能を学修したあとで疾病によってそれらがどう変化するか学ぶ。具体的な疾病として腫瘍、感染症、血液疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、循環器疾患、泌尿器疾患、神経・内分泌疾患、筋骨格系疾患などを取り上げる。					
準備学習等					
<p><b>【受講する準備】</b> 講義は次ページの「授業計画」に沿って行う予定である。下記「テキスト」欄で指定されたテキストや、後半8回（高野担当分）は後半の初回に配布される「講義レジュメ」において次回予定内容の該当項目を一読し、大まかな内容を把握しておくことが望ましい。また、内容理解に際しては解剖生理学的な知識も必要となるので、次回講義予定の内容に該当する「体の仕組みと働き」の内容も確認しておく。</p> <p><b>【受講】</b> 講義は授業形式で行われる。各回の授業は進度が早いので欠席すると内容理解が不十分となる可能性が高い。授業を受けた内容はメモを取るなどして記録するようにし、後に復習できるようにする。</p> <p><b>【受講後の復習】</b> 授業で取ったノートを整理し、内容理解に努める。その際、「体の仕組みと働き」における該当する項目を学習すると理解が深まる。この段階で疑問点が生じた場合は、図書館の参考図書などで調べるか、担当教員に質問して問題解決を図る。</p>					
成績評価の方法	期末試験（100％）				
テキスト	『医学書院の系統看護学講座 専門基礎4 疾病のなりたちと回復の促進1 病理学』				
参考図書	講談社地図帳シリーズ（からだの地図帳、病気の地図帳、健康の地図帳、こどもの病気の地図帳）、ナースが視る人体、ナースが視る病気 参考資料：ヌーヴェルヒロカワ社 カラーで学べる病理学 メジカルフレンド社 新体系看護学3 病態と診療の基礎				

備 考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 質問等は授業終了後、教室で受け付ける</li> <li>・ 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連については、別途明示している各学科の履修系統図をご確認ください。</li> </ul>
授 業 計 画	
第 1 回：病気の原因、先天異常と遺伝子異常	(堀内)
第 2 回：代謝障害	(堀内)
第 3 回：循環障害	(堀内)
第 4 回：炎症と免疫、膠原病	(堀内)
第 5 回：感染症	(堀内)
第 6 回：腫瘍	(堀内)
第 7 回：老化と死	(堀内)
第 8 回：症状・病態とは？	(高野)
第 9 回：呼吸器系に関連する症状・病態	(高野)
第 10 回：血液の酸素化に関連する症状・病態	(高野)
第 11 回：循環器系に関連する症状・病態	(高野)
第 12 回：全身の水分分布の異常	(高野)
第 13 回：消化管に関連する症状・病態	(高野)
第 14 回：消化器系や代謝系に関連する症状・病態	(高野)
第 15 回：「痛み」という症状	(高野)